



誌上 進路指導ケーススタディ この生徒とどう向き合う?

ありがちな生徒の悩みにどう対応されるか、先生方の事例研究にも役立てていただければとスタートしたこの連載も、4回目を迎えました。毎回、多くの先生方の日ごろの奮闘の数々を寄せていただいております。今回も受験期にありがちな生徒の悩み。先生方はどう向き合いますか？ また、いつものように、スクールカウンセラーの方と会津大学の荻間澤勇人先生にケース対応の極意を伺いました。

取材・文 / 清水由佳 イラスト / おおさわゆう

ケーススタディ

No. _____
Date _____

受験期が迫って、焦りや不安から浮き足立っている生徒

直前模試の成績が落ちて、授業中もぼんやりしていることが増えた生徒に声をかける。

<やりとり>

教師: 最近、授業中もぼんやりしていることがあるみたいだけど、勉強が手につかない感じかな?

生徒: …はあ。なんか焦っちゃって…

教師: そうか、焦っているんだ。直前模試の結果も気になっているのかな。

生徒: はい。自分では結構がんばって勉強してきたつもりなのに、全然成績伸びていないし。それなのに、推薦で決まった人とかいるし。もしかしたら、自分はどこも受からないんじゃないかって、焦るばかりで。

↓ この後、どのような対応をしますか？ (しましたか?)

● どう対応するか

● 上記の対応をする理由は?

教育カウンセリング心理学の専門家の視点から、ケース対応の極意をアドバイスいただきました。

一般論や気休めは禁物。 正対して、先生自身の体験談も



会津大学 文化研究センター
上級准教授
荻間澤 勇人 先生

かりまざわ・はやと●1986岩手大学工学部卒業後、岩手県立公立高校教諭に。早稲田大学大学院教育学研究科後期博士課程単位修得退学。教育学、教育カウンセリング心理学を専門とする。2015年4月より現職。

みんなで支え合う！

教室の環境づくりも大事

今回のケースのような生徒には、気休めや一般論、軽い冗談などのごまかしは、まったく通用しません。まずは生徒が苦しんでいる状況をまっすぐに受け止めて、覚悟をもって対応し、しっかりとがんばってほしいと伝えることが大事です。そのためには、言葉よりも態度が重要になってきます。話をするときも、他の仕事をしながら片手間に話を聞くのではなく、正対して、「この先生に話をすれば、苦しさをわかってもらえるかも」と思ってもらえるような態度や表情、目力が必要になってきます。

実際、先生方の多くは、このような受験期に成績が伸び悩むということは、当然あるものだと理解されているでしょう。だからといって、「みんなそうだよ」「この時期はそんなものだ」という言葉だけでは、苦しんでいる最中の生徒の耳には届きません。こんな先輩もいた...というのでも、まだまだ遠い。むしろ、先生自身がかつて受験や勉強で体験した伸び悩みの時期や苦しさを、そこをどのように乗り切ったかなど、実体験をぜひ話してあげてください。私も、高校時代に恩師が語ってくれた「伸び悩みの時期や、成績の上がり下がりがあったとして



私なら

こうする！

こうした！

実際に、読者の先生方がどうされたか・どうされようとするかをお伺いしました。

やる気の出る本を紹介

(静岡・県立高校 匿名希望)

脳科学者・池谷裕二氏の『のうだま』（幻冬舎）から、「やる気が出るからやるのではなく、やるからやる気が出る」。体を動かすことで、スイッチを入れることが大切！」などのネタを紹介したり、本を渡し読むように勧めます。他に、『最新脳科学が教える高校生の勉強法』（東進ブックス）なども紹介したりします。

DATAをもとに励ます

(兵庫・県立高校 匿名希望)

まず、「現役生は最後まで伸びる」ことを伝えます。もちろん、感覚だけでなく、これまでの生徒やいろいろなDATAを基にし、しかも、その伸びは、直線ではなく、指数曲線であることを伝えます。ブレイクスルーは「蓄積」の後だから、まさしく模試がすべて終わった時期からと安心させます。さらに、「不安」はみんながもっていることなので、思いを共有し、チームとして同じ方向を向いていくことをクラスで確認します。

苦しいときこそ成長！ を伝える

(鹿児島・県立高校 匿名希望)

まず学習内容や方法を聞き出し確認します。どの教材のどこをどのようなペースで学習しているか聞いていきます。そして、昨日の学習成果が今日出るわけではないということも確認していきます。必要があればプラトリー現象（成長の停滞期）の話などをし、自分の価値を高める努力を続けることの大切さを伝えたりもします。適度な不安や焦りは良いエネルギーになります。過度ではブレキになることも。「安易に妥協し自分を安売りしないように。苦しいときは登り坂。力が付いている自覚症状である。これからの努力が人生のがんばりの証明書になる。受験を通して人間的に成長してほしい」という主旨の話をします。

クラスづくりを丁寧に！

(香川・県立高校 匿名希望)

まさに、専門学校、推薦やAOで決まった生徒が増えて授業が落ち着かないので、以下3点を心がけています。

1. 不安の共有

スクールカウンセラーの視点

このようなケースで、スクールカウンセラーならどう対応されるのか。先生たちとの協力の在り方なども伺いました。



ガイダンスカウンセラー
木村佳穂さん

2005年、岩手大学大学院教育学研究科修了後、青森県と栃木県で6年ずつスクールカウンセラーとして勤務。2017年3月まで、早稲田大学教育・総合科学学術院で非常勤講師も務める。

これまでやってきたことを承認し、 先の具体的な見通しで不安解消を

この時期のこのような悩みはよくあるケースです。漠然とした応援では響かない可能性が高く、できるだけ先の見通しを具体的に言うことによって不安解消をしようと考えます。

そのためには、まず担任の先生に、これまでどういう姿勢でがんばっていたのか、努力の過程を具体的に生徒にフィードバックしてもらったり、教科の先生からも情報収集を行ったりします。直前の模試の結果が不安の引き金にもなっているようなので、内容を改めて分析し、具体的にどうしていくかを、本人と一緒に話をしながら支援します。それによって、家庭での時間の使い方などを見直したり、教科の先生や担任などにも本人から話ができるように勧めたりもします。メンタル的なことといえば、受験対策は単に時間をたくさんかけることよりも、どれだけ質をあげていけるかが大事というような話をすると安心する生徒が多いようです。

も、全体から見れば必ず右肩上がりに成長している」という先生の体験談を、今でも鮮明に記憶しています。

一方、推薦で先に受かった生徒に対しては、周囲への配慮を促すことも大事です。今からは不安になる生徒が増えるということを伝え、教室環境を整えていく。受験もクラス全体で一致団結して戦うという雰囲気づくりをぜひしたいところです。特に、このケースのように一人で不安になっている生徒には、ホームルームなどで今感じていることをみんなで話す機会を作れるといいと思います。そうすると、受験を前に不安になっているのは自分一人ではないということがわかりますし、お互いがんばってきたことを確認し合うこともできるでしょう。みんなで支え合う雰囲気づくりに、ぜひつながってください。

日直が記入する学級日誌に、自分が困ったり迷ったりして気になっていることを交換日記のように記入してもらいます。「間に合わないんじゃないか」、「どこにも受からないんじゃないか」など、みんなが書くことで、自分だけじゃないことを知ることにつながります。さらに私からも、焦るのは普通、みんな不安な気持ちと戦っているということを伝えます。

2. 計画を再確認

苦手なところなど、やるべきことをきっちり計画に落とし込む作業を生徒と一緒にして、他の人のことは気にせず、自分の学習を計画通り進めようということを伝えます。

3. 先に受かった生徒への指導

先に受かった生徒の振る舞いが、最後に受験する生徒の合否を左右することをしっかりと指導します。

最後まで伸びる！を伝える

(神奈川県立希望ヶ丘高校 柳澤隆規先生)



推薦希望者が増え一般受験の生徒が減る傾向にあるので、このような悩みをかかえる生徒は少なくありません。そんなときは、以下のように声をかけました。

「現役生は、浪人生と違ってこれから一番成績が伸びていく時期。といっても、成績は一定で伸びていくわけではなくて、必ずスランプの時期がやってくる。もしこの時期にスランプならラッキーだよ。この時期のスランプを乗り越えられれば、急激に成績が伸びる時期がやっ

てくるはず。そのときを楽しみに今はしのいでいくしかない」。推薦で受かっていくのも一つの方法だけど、苦労して受験をして受かっていくのも悪くないよ。今は辛いことだらけだけど、この受験勉強の経験は必ず役に立つ」。このような声かけを通して、今置かれている立場をポジティブに考えられる方向へもっていかればと考えています。受験勉強が辛くきついことはどう考えても変わらないので、その状況をプラスに考えることができればモチベーションも保てると思います。

教師自身が 強い意志をもって応援！

(和歌山県立高校 匿名希望)



受験を成功させる鍵は、体調管理と意志の力。意志パワーは、絶えず励まし続けないと衰えてくるので、相談を受けたときはどんなに忙しくても、本人の気が済むまで話を聞いてあげます。ピンチのシグナルが大きい子ほど、担任が本当に君のことを大事に思っているのだ、ということをしっかり伝え、思いっきり声援を送るのが一番、と思います。保護者からも、「先生、どうしたらいいんでしょう？」と電話がかかって来たりしますが、そんなときも、「結果はちゃんと出ますから、一緒にがんばりましょう」と支えます。担任は、決してオロオロしてはいけません。担任自身が意志の力を鍛えて、高いレベルを保っていないと。そんな教師が差し出す言葉は、その子にとって意味があると、私は信じています。